

建築物の構造及び開口部が周囲に与える影響に関する研究【安全・安心】

研究開発期間（令和 7～9 年度）

〔担 当 者〕 竹谷修一

本研究開発課題は、防火地域等において単体あるいは集団火災時に発生した火熱による周囲への影響について、建築物の構造や開口部の違いによりどのように変化するのかを明らかにし、今後の防火地域等で確保すべき性能等の検討に資する基礎的知見を得るものである。

本年度は、建築物のモデル化及びシミュレーション条件の設定に関し、東京 23 区内で防火地域に立地する建築物の階数、構造等の集計を行い、防火地域内におけるボリュームゾーンとなる防火上の構造・階数・平均建築面積を求めてモデル建物の設定を行うとともに、受熱量計測ポイントを設定した。また、単体火災が周囲に与える影響の検討に関しては、火元建築物の周囲に建築物がない状態における周囲の最大受熱量を 3 次元的に、かつ、開口部の性能や開口部の壁面に対する割合を変化させて試計測を行った。